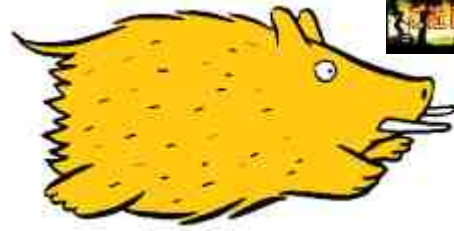
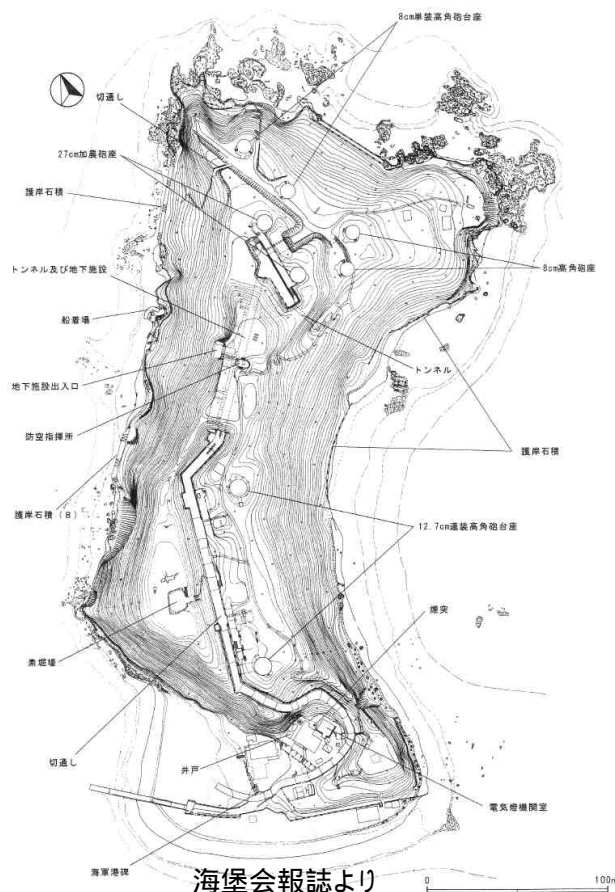




トランプ勝って言ってるじゃないか



どぶ板海堡考 編 by うさお



歴史遺産クルーズのうち、猿島の紹介で終わってしまった前回だが、今回はその続き、クルーズの締め括りと「どぶ板横丁」、衣笠のご紹介だ。前回に述べましたように横須賀は、帝国海軍と米海軍のイメージが強い街です。ヴェルニー公園は帝国海軍の匂いのするところ、追浜は帝国海軍の戦闘機を作っていたところ、海上自衛隊が旧帝国海軍を踏襲しているのだけれど、あまり自衛隊のイメージは強くない。

さて、前回の猿島要塞の配置図は左図のようになっています。栈橋から降りると蒸気動力で稼働している発電所が左手にあります。ぐると谷戸に沿って昇っていくと、ウッドデッキで整備された露天掘り切通。

ここでスガシーの撮影が行われました。切通の右手には兵舎、弾薬庫が並び、左手が台所、便所です。島中央の山に穿たれたトンネルは司



司令部、弾薬庫、兵舎です。トンネルを抜けると変なお姐ちゃんがコスプレしていた通路に出てここに兵舎、弾薬庫があります。

猿島を出航すると暫らくして第二海堡が見えてきます。第二海堡は江川太郎左衛門の帝都防衛線構想によって作られました。諸外国が攻撃してくることを考え、観音崎、猿島、海堡群、富津で軍艦に大砲を打ち込もうとするものだ。

その後帝国海軍の要塞として働いたが、実戦での戦闘は行われていない。関東大地震で脆くも崩れてしまったのだ。もともと、江戸時代から石や土を運んで海の中に人工島を作ったので、強度はたかが知れている。

基礎が弱い所為か、見事に崩れているのが判る。以前ご紹介したグリコ隊員とCaccoの報告ではこの崩れかけた煉瓦トンネルに入り込んでいました。良い子は真似しちゃ駄目ですよ。しかし植物は強いなあ、

絶海の人工島にも草や木が生えて来ちゃうんですからね。

そしてここがCaccoが最も愛着をもっている所。S君がまだ第二海堡に立ち入りが許可されていた時に、ここでPVを撮ったのだ。その後、トマソン別動隊が上陸し同じ場所で記念撮影をした。今回ツアーコンダクターが「この場所でミスチルのSさんが『終わりなき旅』を撮ったんですよ」と紹介。大喜びのCacco。思うにS君のプレーンに廃墟マニアが絶対いる。



2008 年 10 月現在



2000 年の第二海堡

2000年の時と較べて見るとあまり変わっていないことが判る。草は年代を感じさせずに青々としている。人だけが滅びていくのだ。

以下2000年の第二海堡を紹介しよう。人がまだ海堡に入れた時代の貴重なものだ。



先ほどの崩れ落ちたトンネル。ここを砲弾が運ばれていたのだろう。やはり無筋の煉瓦積では、関東大震災の揺れには持たないのだ。と言うことは敵の砲弾が命中した時にも、とても耐えられそうにも無いね。
グリコ隊員の「廃墟遊戯」に詳しいぞ。煉瓦の色は今作られたかのように鮮やかだ。



この角度がS君のPVの角度だ。
ここにどんな砲を置き、どんな風に
兵隊が配備されたのかおよそイメー
ジが出来ない。うさおなんかはこの
ような階段では、転げ落ちてしまう
こと請け合いだ。



構図は大変よろしいのだが、撮影
者のCaccoは危ないトンネルの中だ。
危ない真似はしちゃ駄目なのになあ。
昔ここを守っていた兵士は、敵影の
無い時には釣りでもしていたんだろ
うか、あまり融通の利かない上官だ
った場合は地獄だなあ。

中の部屋はあの当時の土木屋さんの
センスを伺わせる趣の或るものだ。かつ
ては土木屋も美術的な感性を持ち合わ
せていたのだが、最近の限界設計のおか
げで実に味気ないつるんとした構造物



が出来上がっている。あっ、またっ、だめ
だってばあ、崩れそうなトンネルの中から
写真なんか撮っちゃあ。



当時はまだ技術がそれほどでもなかったから、合成だってばれればだね。



この四角い豆腐のようなものは、船の消磁機だぞ。海の上でも走り続けていると静電気のように、磁気を帯びるんだそうで・・・電子兵器に影響を与えないように、ここに一度接岸してから係留埠頭に向かうのだ。

おなと街自慢

よこすか海軍カレーと一般家庭のカレーの違いは？

じつは、
よこすか海軍カレー
こそ、おびくろの時、
家庭の味のカレー
だったの？！

かつての日本海軍のカレーは、イギリス海軍のカレーのレシピを一部にあわせてアレンジしたもので、乗組員が軍用持ち帰り、カレーが全国に広まりました。つまり、日本の家庭のカレーはもとは海軍のカレーからきているのです。

よこすか海軍カレーのルーはカレー粉と小麦粉を炒めてつくります。具材は、牛肉が通常のほかにニンジン・タマネギ・ジャガイモの3種類が基本です。野菜はサイコロ状に切って入れます。これは、海軍の船内食が基本であったため、船とでの食事を大切に、衛生をあげるためでした。

そして、出来上がったカレーには、牛乳とサラダ、薬味にタタキが必ず添えられます。

横須賀では、平成11年に「カレーの都よこすか海軍委員会」を設立。昔ながらの海軍のカレーを再現し、カレーを通じてまちづくりがスタートしました。平成17年4月には、横須賀市とカレー事業者が協働して「Y'sポート 横須賀」を開業させ、惣菜店コーナー「観光インフォメーション」と横須賀海軍カレー美術館がオープンしました。今では、レトロカレー事業者をはじめ町の事業者が参加して、「よこすか海軍カレー」を中心メニューにカレーの記録のおもしろい街を創出しています。

よこすか自慢のカレーの
店はこんなところに！

よこすかカレーの
おもしろい
食べ方
を
知ろう！





汐入駅にまで戻って「海軍カレー」を食べさせてくれる所を探してみました。とあるビルの二階にそれらしき所がありました。表には「海軍カレー認定第34号」～ふ～ん～、老舗が一軒って訳じゃなくて街全体で海軍カレーを盛り上げているんだ。

店の中は前頁の通りで、何となく湘南辺りのサーファーの店みたいな感じだった。メニューもアメリカ西海岸をイメージしたものばかりだったが、ぽつんと海軍カレーが載っていたっけ。

「みなと街自慢」は「ぐじらぼ4号」から転載。国土交通省関東地方整備局東京湾口航路事務所の機関紙です。

横須賀中央の駅に近くには、「横須賀海軍カレー」の本舗なところがあった。

ここでお土産のカレーを、倅達と自分用に買ってきました。ボンカレーのように、袋ごと温めるだけで食べられます。



海軍カレーのマスコットは、横須賀市が力を入れている「スカレーちゃん」。

「ヨコスカ」と「カレー」の合体だが、「スカレー」って、どうすかね～。

どぶ板通りには著名人の手形がハリウッドのようにあるのだが、うさおたちは致命的なミスをしてしまった。赤枠の処だけを探し回っていたが、黄枠の処にもありましたって、むしろそちらのほうが王道でありました。





舗道にも刻印された「DOBUITA STREET」の銘版が・・・やはりこの街で目に付くのは、戦後の米兵相手の店の英字看板だろう。横須賀で生きていくには、英語が出来なくては・・・

山口百恵も横須賀の学校に通ってたんじゃないかなあ。



横須賀はジャズ発祥の地なんだったって、横濱の馬車道にもやはりジャズ発祥の地と書いてあった。横須賀のほうがジャズイベントは派手のような気がする。

他にも神戸がジャズ発祥の地と言われている。日本人ジャズ演奏者井田某が日本初の演奏をしたことに由来する。横須賀は戦後ジャズの発祥の地なのだそうです。米海軍下士官兵集会所でルイ・アームストロングなどが来たらしい。他にも大阪港とも言われるらしい。



通りの中央辺りに残っている延命地藏尊の祠。祠ってえのは神様を祀るところだったかなあ。でも地藏菩薩様を祀ってあるところも結構あります。海に近いこれらの御本尊の場所を動かすと、祟りがあるって・・・で、ここなんだね。洋式だらけの中に、いきなり和式だもんなあ。

で、手形の人名簿は以下の通り。8番と18番が空いているのが気になるね。

差障りのある人で削られたのか？

1	王 貞治	2	団伊久磨	3	猪熊 功	4	高島秀武	5	渡辺真知子
6	栗原一登	7	野島 稔	8		9	前田武彦	10	福原 彰
11	安田 伸	12	高木 豊	13	田辺 学	14	斉藤明夫	15	佐々木主浩
16	宇崎竜童	17	阿木耀子	18		19	石立鉄男	20	奥寺康彦
21	近藤達哉	22	野村弘樹	23	大川 隆	24	石井琢朗	25	本多俊夫
26	谷繁元信	27	田島令子	28	日野皓正	29	日野元彦	30	阿川泰子
31	ジョージ川口	32	伊東英美子	33	原 順子	34	叶 正子	35	叶 高
36	叶 央介	37	五十嵐喜芳	38	出光ケイ	39	雪村いずみ	40	MALTA
41	原 信夫	42	錦織 健	43	飯森範親	44	徳永二男	45	白鳥英美子
46	清水哲太郎	47	森 洋子						

5 渡辺真知子



11 安田 伸



14 齊藤明夫



16 宇崎竜童



17 阿木燿子



20 奥寺康彦



21 近藤達哉



23 大川 隆



25 本多俊夫



27 田島令子



28 日野皓正



29 日野元彦



31 ジョージ川口



33 原 順子



34 叶 正子



35 叶 高



36 叶 央介



12 高木 豊



全部の手形が示されていないのは、事前に設置場所を確認しなかったからです。あんなところに一杯あるなんて、詐欺のようだ。

横須賀中央はジャズ発祥の地ということで、ベンチにこんな風な銅像が座っている。結構ベンチの真ん中あたりに堂々と座っている

ので二人は腰掛けられない場所もあります。青い服を着て寝そべっていたら、銅像だと思って許してくれるかもしれない。

今度ホームレスになったら、横須賀当たりが住み易そうだ。少し南だから、気候もあったかいし残飯も多くありそうだ。

上野でホームレスは、とっても寒そうで自分には耐えられない。やはり、横須賀だと思う。

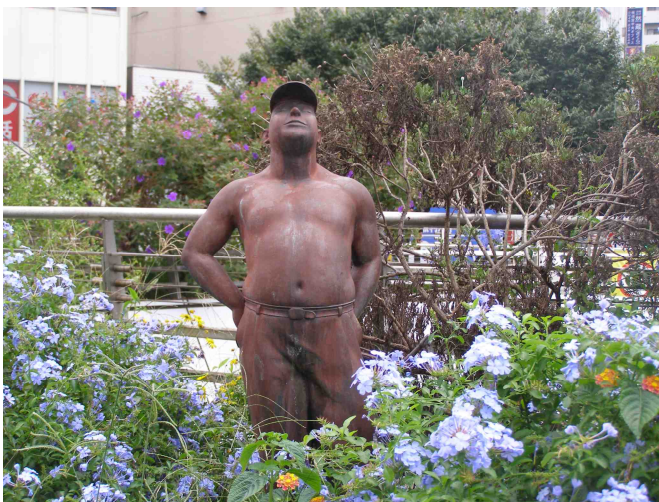


横須賀中央駅に行ったら、大きな高架の駅前広場上に先ほどとは趣の異なる銅像（？鉄像）があった。上半身裸の人たちで何だかちょっと醜い。サッチモとかなのか。

この像はずいぶん前から、野比の親戚から帰る時に知っている気がする。

でも、この像に似た像が全国各地に存在していると言われている。

こんな像が人気があるのだろうか？それとも既製品のデザインの銅像のひとつか？
謎を呼ぶ銅像だ。



もちろん街行く人たちは見向きもしない。

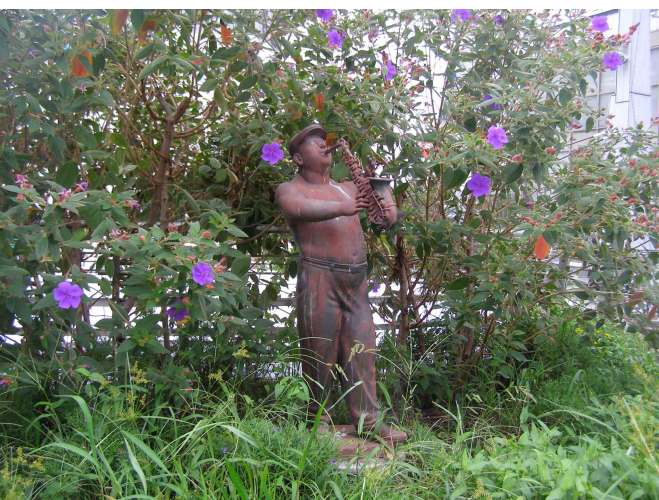
脂肪三兄弟とも称されている。

（かどうかは知らない…余分三兄弟は脂肪、糖分、塩分だが…）



この駅前広場はY字型の歩道橋（本当は公共歩廊：elevated pedestrian deck）でY字のYはyokosukaの略とも言われています。

鉄が不足時もありましたが、よく盗まれなかったものです。メタボの分だけ重量がありそうで値打ちものだ。



さて、今回は軍事遺跡の続きで第三お台場跡を報告するつもりであります。